



うさぎや株式会社
TSUTAYA 自治医大店 様

お客様訪問

No.34

●住所: 栃木県下野市医大前3-1-1
●TEL: 0285-44-7637
URL: <http://www.usagiya-web.com/shopinfo/cat7/>

栃木県を中心に、埼玉県、宮城县に複合書店を展開している、うさぎや株式会社様。TSUTAYA 自治医大店様は、県内最大の大型複合書店です。今回、店長の斎藤様にお話を伺いました。

■うさぎや株式会社 TSUTAYA 自治医大店様の特徴を教えて下さい。

本・文具・DVD・CD・ゲームなどを取扱い、お客様へ豊かな生活提案が出来る店舗を目指しています。当店は、1階にタリーズコーヒーを併設しておりますので、「買った本を読みながら、コーヒーを飲む」というお客様も多くいらっしゃいます。

■お客様に対して、どんな点に気を配っていらっしゃいますか?

『当たり前のことが当たり前に出来ていること』を注意し、お

お客様が当店を快適に利用していただける様に、配慮しています。

■トイレに関して気をつけている点や、工夫している点をお教えてください。

トイレの利用頻度が非常に高いので、オーブン前とオーブン中に計6回の清掃・点検を行い、キレイな状況を維持できる様に努力しています。

■アメニティを導入した理由と、導入して良かった点を教えてください。

導入前は、トイレの臭いが気になっていました。お客様からも「トイレが汚い」と指摘があり、



▲清掃方法のマニュアル



☆私が担当しています!☆

SHOP

allアメニティ

川田大輔

(かわだ だいすけ)

さん

トイレ診断士

ID:

10-0212-0346

川田

大輔

(かわだ だいすけ)

さん

トイレ診断士

ID:

10-0212-0346

うさぎやTSUTAYA自治医大店様の担当となり、約一年。店長様と共に、日常清掃のレベルアップや、キレイな状態を維持していくポイントなどを考え、アドバイスさせていただいている!お客様に喜んでいただけるトイレを創造していきます!!

案してください。業者との関係性は信頼が第一と考えています。川田さんは安心して任せられる方です。今後も店舗の美化に対して頼りにしています。

▲便座除菌クリーナーV-ZERO
▲尿石防止剤「ビビダリア」と森林浴消臭機「ポンボア」

主婦ライター・水仙の水に流せない“廁”論

第8回 男はなぜトイレ掃除をしないのか?

このタイトルを見ただけで、「俺はちゃんとやってるぞ!」とご立腹の方。あなたは数少ない「やっている派」です。素晴らしいです!(バチバチバチ!)



みなさんのトイレをメンテナンスしているアメニティのスタッフの多くは男性ですが、こと家庭となると話は違ってくるようです。15~79歳男女1,200人を対象にしたトイレに関するアンケート^(※)では、「家の中で自分が月に1回以上掃除する場所」としてもっとも男女差があったのが「トイレ」。女性87%・男性39%で、その差は50%近く!アンケートではその理由までは調査されていませんが、おおよそ「男性はトイレ掃除をしない」傾向にあるよ

うです。その理由を私なりに考えてみると…。まず、「妻(または母親)がやってくれるから」。これは女性にしてみれば「夫(または子ども)がやらないから仕方なく」ということもあるのでは?そして、「トイレ掃除はなんとなくイヤ」という気分的な理由。いずれにしても、「家事は女性がするもの」という先入観は影響しているのかもしれません。

でも、「自宅のトイレで立ちション派」の男性はちょっと注

目! 男性が1日に7回トイレに行くと、床への尿ハネは2300滴にもなるそうです。ちょっと想像つかない数字ですが、とても汚れてしまうことは確かなようです。

このコラムをご覧になっている男性のみさんが重い腰を上げて、「休みの日ぐらい俺がやるか!」と今週末にでも進んでトイレ掃除をしていただければ、こんなに嬉しいことはありません。

※出典: 2013年12月「家の掃除」に関する調査
日本リサーチセンター・オムニバス・サーベイ

編集後記

Information!

トイレ診断士達のブログと検索してください。
<http://www.toireshindan.com/>



「トイレ診断士」によるブログをご存知ですか。全国のトイレ診断士が、トイレを通して思うこと、感じること、診断の実情などを赤裸々に語っています。お気軽に覗いてみてください。

あなたの町のアメニティネットワーク

アメニティ本部フリーダイヤル **0120-57-1110**

ト イ レ を 楽 し く す る 新 開

か わ や 版

KAWAYABAN

2014 春号 Vol.48

特集 トイレのユニバーサルデザイン

ユニバーサルデザイン(略してUD)とは、「特殊な設計をしたり、特別な機構を設けなくても、できるだけ多くの人にとって使いやすい設計やデザイン」のことです。1987年ごろ、アメリカのロナルド・メイス氏らによって提唱され、7つの原則が作られました。

なぜUDが必要なの?

日本を100人の国したら、65歳以上のお年寄りは20人、子どもは15人、障害がある人は6人、妊婦さん、外国人の人…いろいろな人がいるので、みんなが使いやすくなることが大切になります。

身の回りのUD

昔の飲料缶は、栓を開けるとプルタブと缶が分離するタイプが一般的でした。でもこの形では、分離したプルタブがポイ捨てされたり、怪我をしたり、力の弱い人が開けにくかったりといつてきました。車いすの方が使いやすいように広いスペースの確保や手すりの設置、オストメイトの方のための器具の設置など、より多くの方への配慮がされています。また、扉の表と裏

トイレでもUDの考え方を取り入れられています。その1つが、温水洗浄便座①です。最初は自分でおしりをふけない人のための機能として開発されました。でも、おしりを洗えるのは誰もが快適なことなので、UDとして一般にもどんどん広がりました。現在では、温水洗浄便座の家庭普及率は70%を超えているそうです。

公共トイレでもUDの考え方進み、「多機能トイレ」「誰でもトイレ」と呼ばれるトイレが増えました。車いすの方が使いやすいように広いスペースの確保や手すりの設置、オストメイトの方のための器具の設置など、より多くの方への配慮がされています。

空港には大きな荷物を持った方も多いので、その方たちにもトイレが使いやすいうように、ブースの扉に折り戸を採用し、ブース内のスペースを広く確保しています。また、扉の表と裏

最近では、乳幼児を連れたパパやママへの配慮が特に注目されていて、おむつ替えをするためのベビーシート②や、着替え用のフィッティングボード③、子どもを座らせておくためのベビーチェアなどを備えたトイレが増えてきています。

羽田空港国際線旅客ターミナルでは、あらゆる国のあらゆる立場の人々が使用するので、トイレも使い方がわかりやすく設計・デザインされています。

空港には大きな荷物を持つ方も多いので、その方たちにもトイレが使いやすいうように、ブースの扉に折り戸を採用し、ブース内のスペースを広く確保しています。また、扉の表と裏

そして、みんなが使いやすいように、扉の使い方④をイラストと4か国語+点字で示しています。いしかわ総合スポーツセンターは、車椅子バスケットなど、障害者スポーツの大会も開催できるようにと設計段階から障害者の意見を聞きながら作ったスポーツセンターです。

トイレの折り戸では、床に折り戸が描く軌跡を白い点で表示⑤⑥するなど、初めて使う人にも優しいデザインになっています。

まとめ

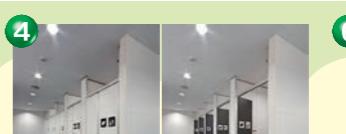
多くの方が使いやすいトイレが増えるには、UDの考え方がポイントになりそうです。そうすれば、もっと多くの方が外出しやすくなり、より明るく楽しい世の中になっていくのだろうと思いました。



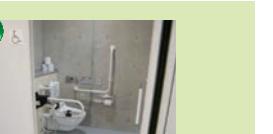
▲くぼみができる栓を開けやすい飲料缶



お子さん連れに嬉しい設備。



入室中 空室 トイレの空き状況がわかりやすいデザイン設計。



表示扉の描く軌跡を点字で

【参考文献】●ユニバーサルデザインコーディネーター2級公式テキスト(日本ユニバーサルデザイン研究機構)
【取材協力】●コマニー株式会社 高橋未樹子氏 ●TOTO株式会社 製品カタログ

文献に学ぶ「トイレ文化」



このコーナーでは、「トイレ文化」に注目し、トイレに関する興味深い文献を紹介致します。

第8回 古今東西トイレよもやま話 2

トイレのはじまり

動物達は人間のように、排泄に対し、汚いとか恥ずかしいとかいった感情は持ち合っていないようです。これらは、人間が進化する間に生じた感情なのでしょうが、その始まりがいつなのかはわからていません。トイレの誕生について同じことがいえますが、一般に巣を作らない動物は、一定の排泄場所を持たないようですから、人間も定住するようになってから、「トイレ」という考えを持つようになったのかもしれません。

人間は進化の途中で直立歩行するようになりました。その際、四本脚で歩いていたときに後ろから見ることのできた肛門は、足の間に入りて隠れ下を向くようになりました。そのため、直立して足をくつつけたままでは排便できなくなり、足を広げるか、かがむかしなければならなくなつたのです。排便の姿勢には大きく分けて「しゃがむ」と「腰掛ける」がありますが、これは「和式トイレ」と「洋式トイレ」とにそれぞれ結びついています。

四脚の動物では、体内を通り抜ける食は水平に送られて行きますが、直立した人間では、上から下へ送られることになり、肛門はかなり強い筋肉によって閉じていなければ、排泄物がこぼれ落ちてしまいます。また、いきなり出ないようにするため、腸など内臓の働きも変化してきました。その結果、人間にとて排泄することは大事となり、生き物の中で最も排泄に時間がかかるようになったということがいえるでしょう。トイレの中に新聞や雑誌を持ち込む姿が目に浮かびますが、これも、なまじ人間が進化したための袁れな姿といえるかもしれません。そして、長居せざるをえないトイレをいかに快適な

場所とするか、悩み続けねばならなくなつた原因も、ここにあるといえるでしょう。

排泄に時間がかかるようになつた人間ですが、大昔は動物と同じように、危険さえなければ、いつどこで排泄しようがまわない、トイレという考え方持たない生活を送っていたと考えられます。しかし、住居を作り村をなし、定住生活を営むようになると、そう自由に、どこででも排泄してはいられなくなつてくるのかもしれません。悪臭を放つだけでなく、病気の原因ともなれば、自然に、共通の認識の元、生活に支障の来さないところを選んで排泄するようになるのも当然のことと考えられます。こうしてトイレという意識が誕生してきたのではないですか。

各地のトイレの歴史

■縄文時代・鳥浜貝塚の川屋

福井県三方郡・鳥浜貝塚では、縄文時代前期(約5,000年前)の糞石(ウンコの化石)が多数発掘されています。これら糞石の多くは古鳥浜湖に打ち込まれた杭群(村からなるべく遠くにごみを捨てるため造られた桟橋と考えられています)の近くから見つかることが、調査の結果わかつきました。そこで鳥浜の縄文人達は、この桟橋からお尻を出して用をたしていたのだろう。つまり、桟橋を川屋としても利用していたのではないかと考えられるようになりました。



▲鳥浜貝塚の川屋(模型)

■ボルネオの川屋

このボルネオを含む太平洋に浮かぶ南洋諸島、オセアニアといった地域では、現在でも、川屋形水洗式トイレが使われています。川底に木の杭を打ち込み、これを支脚として、丸木や板を筏のように組んだ床を川に浮かべ、この上に小さな小屋を建てたスタイル。また、遠浅の海に、浜から長い桟橋を伸ばし、その先端に簡単な小屋を建てたスタイルなど、「かわや」は、川の上だけでなく、海の上にも作されました。

用を足すと、排泄物は川や海の中に落ちますが、糞は下を泳ぐ魚達の格好の餌となります。フィリピン・ベトナム・インドネシアなどでは、養魚場の上にトイレが選んで排泄するようになるのも当然のことと考えられます。こうしてトイレという意識が誕生してきたのではないですか。



▲ボルネオの川屋(模型)

■メソポタミア、テル・アスマルのトイレ

テル・アスマルは、イラク東部、バグダードの北東約60kmの位置にあるシュメールの都市エシュヌンナの遺跡です。ここで発掘されたアッカド王朝時代、紀元前2200年の宮殿から、現在、私達が知ることのできる世界最古のトイレが発見されています。

この宮殿は、トイレと浴室が多く、しかも完備しているのが特徴ですが、少なくとも6ヵ所のトイレ、5ヵ所の浴室があります。トイレは、煉瓦をコ字状の椅子形に積んだ便器が設置された水洗式でした。その廃水は宮殿東壁に沿って作られた本管に流れ込みます。本管は高さ1m、長

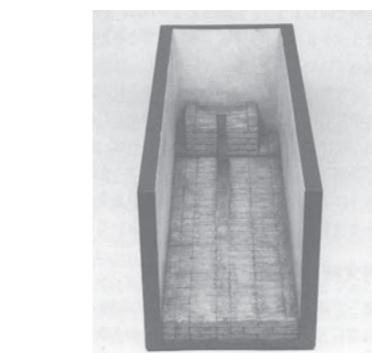
さ50m、地下に埋められ、アーチ状の覆いが掛けられています。その中には上部に通路があって、掃除のために歩けるようになつました。

この遺跡では、宮殿の100年後、紀元前2100年の一般住宅からもトイレが発見されています。こちらも煉瓦製便器で、下を水が流れ、排泄物は焼物で作られた排水管を通して、下水道から、チグリス川の支流、ディヤラ川へと流される高野山形水洗式でした。

メソポタミアは、チグリス・ユーフラテスという大河に囲まれ、水資源に恵まれた地域ですし、シュメール人は、人の糞尿を肥料として利用することはありませんでした。ですから、このような水洗式トイレが生まれたのでしょうか。



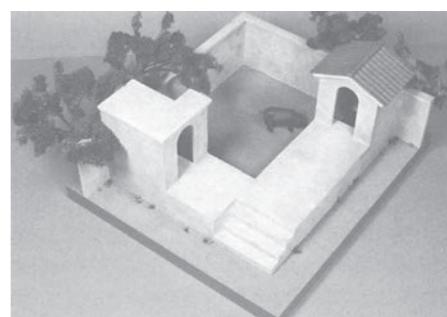
▲テル・アスマル遺跡、宮殿のトイレ
李家正文氏写真提供



▲テル・アスマル遺跡、宮殿のトイレ(模型)

■中国の豚便所「國」

中国では、墓の中に副葬するため、実物の器物の代用として「瓦製便器」と呼ばれる焼物のミニチュア模型が作られました。これは前漢時代(紀元前202~紀元後8年)から盛んになり、後漢時代には



▲中国、清時代(1616~1912年)頃の豚便所(模型)

全国に普及し、副葬品の大部分を占めるようになります。

その明器の一種に、ブタを飼う畜舎があります。四角または丸い垣の中にブタが飼われ、垣の壁上に小屋があります。この小屋こそトイレで、ここで用を足すと糞は下の放牧場に落ち、ブタの餌となるわけです。人間の糞には、未消化のまま排泄されるものがかなり混ざっていますから、ブタは強力な消化力で、それらを栄養として吸収します。なお、ブタは、冷えた糞より、ホカホカの温かい方を好むそうです。このようにして育てたブタを、今度は人間が食料とするわけですから、豚便所はみごとなリサイクル・システムということができるでしょう。豚便所は、遅くとも前漢時代から始まり、近代までずっと利用されていました。

中国には「國」という字があります。これは、ブタを垣の中に囲っていることを示しますが、人糞をブタの餌にするため、ここで用便することから、トイレを意味するようになったといわれます。このことは、豚便所が、いかに一般的であったか



[出典] トイレの考古学・講演編(118-121頁)より転載
編集: 大田区立郷土博物館
発行者: 村山弘二
発行所: 東京美術
発行: 1997年5月30日

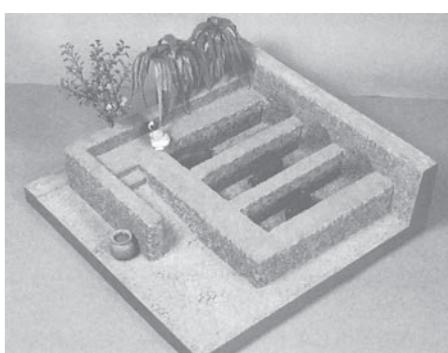
を想像させます。この豚便所のシステムは、ヒツジやウシ、さらに魚にも応用されていたようです。

■沖縄の豚便所「フル」

中国大陆の豚便所は、台湾や沖縄へも伝わり、第二次大戦頃まで見られたそうです。豚便所のことを、沖縄の中でも、首里では「フル」、那覇島では「フルヤア」、石垣島では「フリマア」、本島の糸満では「ファフル(豚小屋と同じ呼び方)」などと、異なる呼び方をしていました。「フル」は「風呂」で湯殿の意、つまり四方を囲むことの総称です。石造りのりっぱな豚便所は、沖縄で最も特色あるもの一つとされました。

豚便所のそばには、ユウナという、広い葉を持つ木が植えられていることが多い、このユウナの葉がトイレット・ペーパーの代用として使われたといわれます。

沖縄の豚便所は、第二次大戦後、衛生面での不安を考え使用禁止となり、現在では、トイレと豚小屋は別々に作られています。



▲沖縄の豚便所「フル」(模型)